

日本指圧専門学校同窓会



会報

第 9 号

発行年月日 平成2年3月31日
発行 者 山内貞四郎
編 集 者 小林 秋朝
日本指圧専門学校同窓会
東京都文京区小石川2-15-6
〒112 TEL 03-813-7354
題字 山内貞四郎



浪越徳郎先生と半身像(平成2年3月7日入魂式にて)

碑文

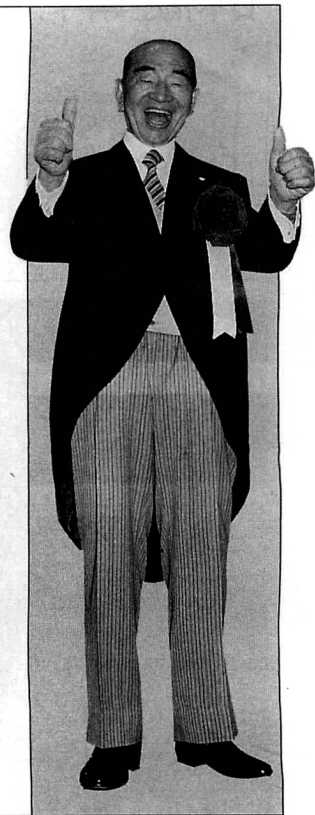
学校法人 浪越学園理事長 日本指圧専門学校々長
浪越徳治郎先生は 明治三十八年(一九〇五年)十一月
三日 香川県多度津に生まれ 七歳の時一家と共に北
海道に移住――母堂がリユーマチスを患い、その看護
に当たり指圧のヒントを得て 修業を積み 遂に 浪
越式指圧療法を創案す

大正十四年九月 室蘭市で指圧治療院を開業 その
後札幌に進出――昭和八年三月 指圧を天下に広め
よう!と 大望を抱き北海道から上京――昭和十五年
(紀元二千六百年)二月十一日(紀元節)小石川伝通院
前のこの地に 宿願の日本指圧学校を設立――

幾多の子弟を養成し 指圧は今や 世界の指圧に発
展したのである 本年は開校五十周年の記念に当たり
同窓会が中心となり 恩師浪越徳治郎先生の偉大なる
業績を称え その人徳を後世に伝えんとて この半身
像を建立した次第である。

平成二年二月十一日

日本指圧専門学校同窓会
創立五十周年記念事業実行委員会



五十年を顧みて

浪越 徳治郎
日本指圧専門学校校長

平成二年二月十一日

指圧を天下に広めよう！大望を抱いて、北海道から上京したのが、昭和8年3月、28才の春だった。私を東京への呼びかけ人が、人生創造の石丸梧平先生だった。東京で唯だ一人の後援者、石丸先生から紹介の名刺を頂きそれを持参して訪問する。一度で面会できる人もあるが、中には二度も三度も足を運んで面会を許される人もある。指圧の説明をして納得いったら、その場で治療する人もあれば断られる事もある。云うなれば、指圧の行商である。この指圧の行商(出張治療専門)を7年間続けた。どんなに頑張っても、1日に5人か、6人である。これでは「指圧を天下に広めよう！」の大理想にはほど遠い。そこで考えたのが、学校の設立である。学校を開いて、指圧の同志を養成しよう！と、決意して準備にかかった。先ず、指圧の基本型の制定である。徒弟制度と違って、学校ともなれば個人指導ばかりは出来ない。号令による基本型の団体教授を考えた。時、恰も昭和15年は紀元2千600年に当り、国家的慶事が行われていた。好機、逸すべからず！と、2月11日の紀元節の佳日を選んで、日本指圧学院を創立したのである。次いで各種学校の認可で日本指圧学校となり、専修学校令で、日本指圧専門学校となり、現在では学校法人浪越学園、厚生大臣認定、日本指圧専門学校と発展したのである。本日ここに創立五十周年を迎え、感慨無量たるものがある。顧みて幾多の人々に支えられたご恩を忘れることは出来ない。深く感謝の意を表する次第である。

浪越徳治郎先生と歩んだ 日本指圧専門学校五十年誌

和		和	
15年2月	紀元二千六百年の国家的慶祝の日を期して、浪越徳治郎先生により日本指圧学院として現在地に創立される。	54年6月	日本指圧の世界的飛躍の情勢に鑑み、東京王プラザホテルに於て「第一回指圧国際大会」を開催。オランダ、イタリア、アメリカなど10ヶ国と日本本土から二千名が参加して大成果を収める。
17年3月	校歌「指圧讃歌」を選定発表。作詩者三石勝五郎先生。	55年2月	開校四十周年記念式典をホテルオークラ曙の間において、全校生徒、同窓の先輩、来賓等、千名を越す参列をみて盛大に開催。功労者19名を表彰す。
19年11月	卒業生一千名を記念して日比谷公会堂に「一指救国指圧大講演会」を開催、聴衆三千名の超満員となる。	55年8月	オランダなど四ヶ国から指圧研修団が来校。
20年5月	米軍大空襲により皇居と共に伝通院一帯は焼野原と化し、指圧学院も灰燼に帰す。	56年2月	メキシコ市で開催された「エステティック大会」で浪越徹副校長の指圧の講習を行う。
21年5月	卒業生や関係者の奉仕により、早くも焼跡に新校舎を建設。	56年4月	学校教育法第八十二条の八第二項の規定による「専修学校」としての認可を申請中のところ、四月一日付を以って正式に認可され、校名を「日本指圧専門学校」と改称す。
28年9月	浪越院長、米国アイオワ州、パーマスクールの招聘により渡米、同行の長男徹氏アメリカに留学急病の世紀の女優マリリン・モンローを帝国ホテルで指圧、快癒させて世界的に名声を博す。	56年10月	都民の日に、保健衛生に貢献した功労者として、浪越校長に東京都知事より都民功労賞が授与される。
29年2月	学校教育法第四条及び同施行規則第三条の規定による日本指圧学校の設置を申請。	57年3月	増築の別館新校舎落成す。
29年7月	学校教育法第四條及び同施行規則第三条の規定による日本指圧学校の設置を申請。	58年4月	春の叙勲で浪越校長、勲四等旭日小綬章の光栄に輝く。
30年2月	各種学校「日本指圧学校」として認可される。	58年8月	アメリカ・カルホルニア州のダウニー市より浪越校長にダウニ
32年3月	厚生大臣より正式に指圧師養成校として認められ、「厚生大臣認定日本指圧学校」として発足。		
34年10月	浪越校長、東京都あん摩マッサージ指圧師及び柔道整復師の審		



ご挨拶

同窓会々長 山内貞四郎

平成二年を迎えるに当り、月日の経つのは全く早いものだと特に感じました。会員の皆様は如何ですか。光陰矢の如く過ぎ去って行く昨年度をふりかえってみた時、やはりその原因として浮んでくるのは、日本指圧専門学校創立満五十周年の式典並びにその祝賀会の大デモンストレーションを、全会員一つ心になって、楽しく行ったことによるのではないかと気づいたのでした。

創立満五十周年の大節目のお祝いを経験させて戴き、いろいろな教訓と今後の活動方針などの行方を示唆する重要なポイントを見出し、この上ない喜びにひたる事ができたのでした。

当日私が同窓会を代表して述べました日本指圧専門学校創立満五十周年記念式典並びに祝賀会に述べました祝辞を、ここに掲載させていただきます。

祝辞

母校、浪越学園、日本指圧専門学校は、本日即ち平成二年二月十一日を以って創立満五十周年を迎える事になりました。誠に御目出たい事でございます。この五十周年という半世紀にも及ぶ長い期間、創立者であられる浪越徳治郎先生には、学校創立に伴う幾多の困難な問題を処理されながら、専門技術としての指圧による人体治療法の研究開発に心を傾けられ、これが完成を見るや、直ちに開発された技術を運用する優秀なる大勢の指圧師の育成訓育に努力され、今日見るが如き指圧道の世界的大発展の基を作って下さいました。手技療法界にとって、実に偉大なる業績と申さねばなりません。また私達母校卒業生が、営々として指圧の道にいそしみ、且つ互に技術を研磨し合つて、地域社会や、広く国際社会の健康保持に大きく貢献出来るようになったのも、やはり浪越先生のこの様な素晴らしい業績が力になっている事をひしひしと感じるのであります。二十一世紀は理学療法が発展する時代といわれています。浪越校長先生には、益々ご健康に意を注がれ、今後とも手技療法界の中心として、斯界の発展にご盡力下さいますようお願いする次第であります。

昭

40年2月	議委員に任命される 学校創立二十五周年記念式典及び祝賀会が上野精養軒に於いて盛大に行なわれ、大平元外相、松永元文相他多数の来賓よりお祝辞を受く。
43年7月	鉄筋5階建の新校舎落成!
49年11月	浪越校長、アメリカ・カンサス市の医療研修会に招聘され、日本指圧の真髄を説く。
50年5月	開校三十五周年記念を浪越校長の七十才の古稀の祝い並びに指圧開業五十周年の祝い等併せ、浪越徳治郎百五十五年祭と銘打ち、椿山荘において盛大に挙行される。
50年8月	夏休みを利用したジャンボ修学旅行としてアメリカ指圧親善セミナーを開始、ロスアンゼルス、サンフランシスコ、ハワイ等で指圧セミナーを通じ、日米親善に大いに成果をあげる。
51年11月	フランス医療グループに招かれ、パリ郊外サンマロで指圧講習を行う。
52年2月	オランダに姉妹校誕生。「オランダ日本指圧学校」の名称で創立され、校長には英国人デニス・ピンクス氏が就任された。
52年10月	十五期卒業生の因泥文彦氏がハワイに愛泉指圧学校を創立、二番目の姉妹校となる。
53年8月	アメリカ・ユニオン大学総長ウオーカー博士より浪越校長に「名誉哲学博士」の称号を授与される。

平

成

昭

59年11月	一名市民の鍵が贈られる。 飯能老人ホームの在園者に臨床実習で指圧奉仕を継続、飯能市長より表彰状を受ける。
60年11月	浪越校長の傘寿を祝う会がホテルニューオータニ鶴の間で盛大に挙行される。
62年3月	創立10周年を迎えたハワイの姉妹校、愛泉指圧学校の祝賀会に浪越校長代理として徹副校長が渡布す。
62年4月	「学校法人・浪越学園」誕生。 念願であった法人化する。
63年3月	オランダ指圧学校長デニス・ピックス先生来校。特別研修コースに参加。そのお礼として一九一〇年に製造された純銀のスプーンに「指圧は世界を結ぶ」と銘打ってオランダ指圧学校より本校に贈呈される。
63年5月	学園理事、事務局長堀武治郎先生の学園葬が伝通院において挙行される。
元年7月	創立五十周年記念実行委員会が結成され、記念事業の式典、祝賀会、学校創立者浪越徳治郎先生半身像の建立、学校五十年誌の刊行等が発表される。
元年12月	あん摩マツサージ指圧師はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則の一部を改正する省令に伴い、現行の修業年限2年が3年に変更され、その申請がなされる。



95歳の井澤正先生元気に登壇



記念式典会場

指圧専門学校創立 50周年記念祝賀会



五禽の会全員による花笠音頭





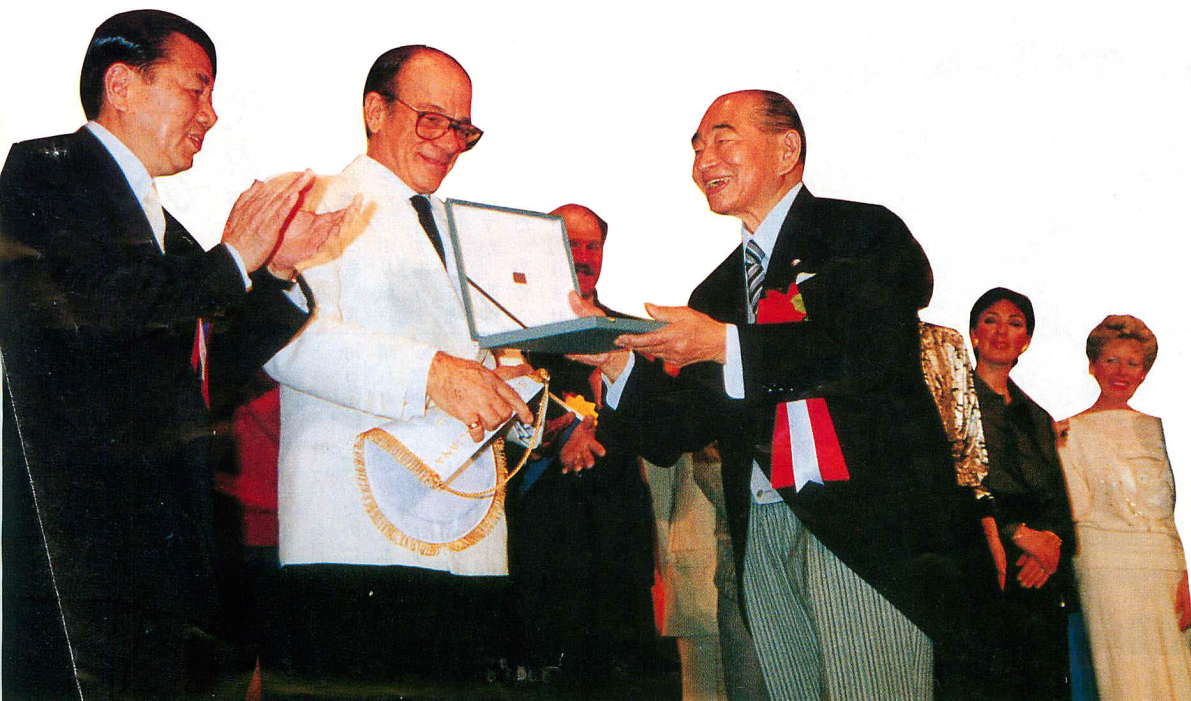
校長職を譲り激励の固い握手



除幕をする曾孫(ひまご)の浪越光徳君と、
琴乃富士の長女・泉ちゃん



今年満百歳、太田顕先生の乾杯の首領



▲イタリア指圧学校長・ルーディ・パロ
ンビーニ先生より記念品贈呈

日本 五十周年

日本指圧専門学校 創立五十周年記念式典・祝賀会

浪越徳治郎先生半身像建立除幕式

日本指圧専門学校同窓会の全国会員、一般指圧関係者の協力と期待にこたえて、学校創立五十周年記念式典並びに祝賀会(併せて浪越徳治郎先生半身像建立除幕式)が、学校、創立五十周年記念実行委員会の主催で、二月十一日午前十一時から、ホテルニューオータニ「芙蓉の間」・「鶴の間」の二会場で盛大に挙行された。格調高く厳肅に進められた記念式典に続いて開かれた祝賀会は、出席者が一千名に及び、

記念式典

記念式典は午前十一時から「芙蓉の間」で開式、全校学生、教職員が主体で関係者を含めて五百名。会場入口では入場者全員に紅白の祝いまんじゅうが手渡された。

定刻近く、来賓、功労受彰者がステージ一杯に着席、輪禍から奇跡的に再起された九十五歳の井澤正先生(日本指圧専門学校名誉副校長)が車椅子で登壇、万場驚きと感激の息をのんだ。式は、日本指圧専門学校副校長石垣惟一先生の司会で進められた。

浪越徹副校長の開式の辞、君が代斉唱、校長式辞に続いて来賓祝辞では、東洋療法学校協会会長・平川勇殿が浪越校長の偉大さについての秘話を披露され、

また前衆議院文教委員長鳩山邦夫先生は衆院選遊説中のタスキ姿で来会し、「私も議員の関係で沢山の周年行事に出席していますが、こんなに大勢の周年行事は稀れなことです」と祝辞を述べられた。半年も前から今日の出席を楽しみにしておられたという井澤正先生は車椅子から一言一言、感激を押えながら、再起できた指圧の有難さ、学校の益々の発展を祈念する祝辞を述べ万場感激の拍手を浴びた。続いて山内貞四郎同窓会々長、佐藤岩治郎日本指圧協会専務理事並びに在校生を代表して小玉誠君の祝辞が終って、学校教職員功労者表彰、受賞者三十六名(氏名別稿)を代表して佐々昭三先生が受賞された。

記念品贈呈では、同窓会片岡昌弘副会長、日本指圧協会山口忠治副会長、在校生を代表して三十二期小宮山悦夫、十三期田代竜介の両氏が登壇し、終って校歌斉唱、万歳三唱(山口忠治氏の音頭)があり、日本指圧協会副会長山岡祥宏氏の閉式の辞で定刻午前十一時四十七分に終了、祝賀会出席者は次の会場「鶴の間」へ移った。

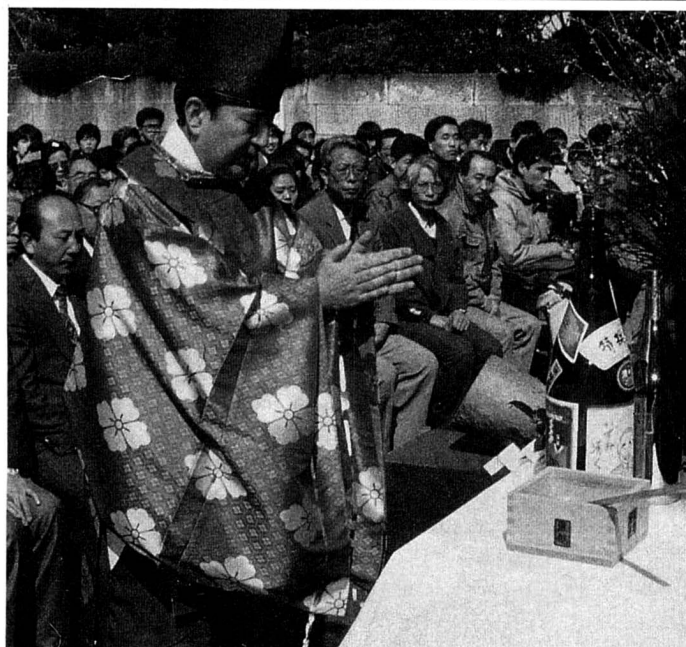
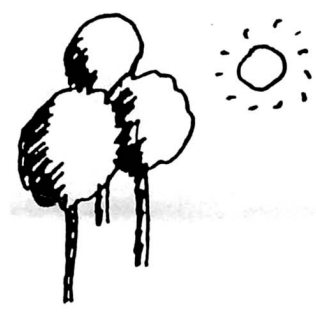
浪越徹副校長の開式の辞、君が代斉唱、校長式辞に続いて来賓祝辞では、東洋療法学校協会会長・平川勇殿が浪越校長の偉大さについての秘話を披露され、

半身像に入魂の儀

代表が口元へ神酒を注ぐ

日本指圧専門学校創立五十周年を記念して、母校校舎前に建立された浪越徳治郎先生半身像の入魂式が、快晴に恵まれた三月七日午前十一時より、五十周年実行委員並びに在校生多数出席のもと盛大に挙行された。式は岡安俊雄氏の司会で、白山神社宮司により厳そかにとり行われた。修祓、献饌、祝詞奉上、切麻散米、入魂乃儀のあと、浪越徳治郎校長と山内貞四郎五十周年記念事業実行委員長が玉串を奉奠し、撒饌を以って入魂式を滞りなく終了した。引き続き、浪越徳治郎先生胸像お酒入魂の儀が行われた。元関取琴乃富士関が、この日の先生のために用意された清酒「力士」の特大瓶のお酒を升に移し、そのお酒を柄杓でしゃくって胸像の口元に入れる前代未聞の儀式で、山内貞四郎先生、浪越徹先生、佐藤岩治郎専務理事、山口忠治副会長、石垣惟一副校長、小林秋朝先生、上野欣二先生、山岡祥宏副会長、浪越満都子先生、根岸とき枝先生、相沢君江先生、元琴乃富士関と続き、最後に浪越徳治郎校長が自分の胸像にお酒を注ぎ、笑いと拍手が湧いた。浪越校長先生は謝辞で「本日は、私の胸像の入魂式をこんな盛大に挙行して頂いてまことにありがとうございます。毎日雨続きだったのにカラリと晴れた晴天に恵まれ本場にありたいことであります」と述べられ、浪越校長の音頭で指圧スローガンを上げて終了。場所を3階教室に移して実行委員会最後の決算報告と、懇親会を以って、日本指圧専門学校創立五十周年記念事業の全ての行事を無事終了した。

実行委員 佐藤八郎



“徹先生に校長職譲る”

浪越校長謝辞で所信披瀝

祝賀会 (第一部)

参加者は予想をはるかに越えて九九八名。さしもの大広間「鶴の間」も着席テーブルが端から端までギッシリ並ぶという壮観さ。この日お祝いにわざわざ来日した外国指圧関係者は、オランダ、イタリア、カナダ、ハワイ、台湾、マレーシアなどから五十余名が出席し、指圧の国際性を地へ示す結果となった。

祝賀会場正面横に特設された緋毛氈の小ステージでは和服姿も美しく長谷川社中六人の奏者が奏でる箏曲が優雅な雰囲気に入場者を迎え入れた。

会は十二時十分、元NHKアナウンサー北出清五郎氏の名司会で第一部を開会。五十周年実行委員・上野欣二氏の開会の辞、

表彰者氏名

(敬称略・順不同)

- 井澤 正、浪越 徹、吉田勝平、定祐寅一、石垣惟一、佐々木三、山内貞四郎、小林秋朝、藤井正弘、上野欣二、木下 誠、鈴木林三、田村鉦二、後藤保正、村上邦夫、出口和雄、柳本昭人、浪越満都子、浪越和民、岡安俊雄、山田明信、小林久夫、藤田和子、芦原 滋、佐藤八郎、大西 寿、佐々木重雄、牧 節子、岡 和子、佐藤允紀、鈴木フク、佐藤喜久子、笠原明子、佐久間健司、柴田智美、大西笹枝

同・小林秋朝氏の経過報告が終ったところで、衆院選挙遊説中の合間をぬって深谷隆司氏(郵政大臣就任)がタスキをかけて来賓祝辞を述べる一幕もあった。

続いて実行委員長・山内貞四郎同窓会会長並びに立体写真像(柳社長・盛岡公彦氏の製作者挨拶があつて第一部メインの浪越徳治郎先生半身像建立の除幕式に移った。

浪越先生の曾孫・浪越光徳君(一才四カ月)と元関取琴乃富士の愛嬢・藤沢泉さん(小学三年生)の二人が可愛い手で除幕の綱を引く。ファンファーレの曲とスポットライトが柔らかに半身像を浮かび上らせた。

続いてテレビ朝日元アナウンサーの棟方宏一氏がゆくりとした口調で碑文を朗読。終って日本指圧専門学校副校長の石垣惟一先生から目録贈呈(浪越徳治郎先生半身像一基、同縮小像五十基)が行われた。

来賓祝辞では、日本手技療法学会会長・芹沢勝助氏、留寿都村(浪越先生かつての北海道居住地)村長上木大五良氏が登壇、続いて来日外人指圧関係者のスピーチ。全員が国旗、横幕などを持ってステージに登壇、それぞれの国を代表して

▽オランダ指圧学校校長IIデニス・ピントス先生、▽イタリア指圧学校校長IIルディ・パロンビーニ先生、▽ハワイ愛泉指圧学校

長II因泥文彦先生(15期)、▽カナダ代表II斉藤健泉先生(21期)代表II陳美玉先生、▽マレーシア代表II李亜才先生(27期)がそれぞれスピーチし、浪越徹先生が通訳。心づくしのプレゼントの数々が笑顔のなかで浪越徳治郎先生に手渡され国際色豊かな来賓祝辞であつた。

花東贈呈では日本指圧協会(代表・根岸とき枝先生)、同窓会(同・相沢君江先生)、在校生(同・池田知以子さん)、姿代表青柳ゆみえさん、ファン代表・原山由美子さん、ガールフレンド・多村友里さん他大勢の方々次々と登壇した。

第一部締めくくりは浪越徳治郎先生の謝辞・祝賀会の開催、半身像建立の謝辞を述べたのち「私はここで五十周年を機会に節目として新しい決意をいたしました。それは、私はこの日本指圧専門学校を、これを機会に倅の徹に譲ろうと思っております。それは決して私が85才になったから、自分の歳を考えたからではなく、倅の歳を考えたからであります。

倅は昭和六年生れですから59才です。いわゆる定年退職の歳です。いつまでも皇太子では可愛想なので……倅を私同様にお引立てのほどお願い申し上げます。」と結び、学校創立五十周年にあたり、今後の学校運営について名実共の節目を立証して謝辞を結んだ。

祝賀会 (第二部)

祝賀会第一部のセレモニーを終って第二部は賑やかな余興の部、乾杯には今年百歳で現役の診療所開業医である太田顕先生が、「第一に、日本指圧専門学校を発展を、第二に最年長者である私のように皆さんが長生きされますように」と乾杯の音頭をとる。

余興の第一は下谷太鼓同好会の柔かいタッチの「徒然太鼓」で賑やかな祭り気分をかもし出す。

す。続いて藤間勸乃ぶさんの、ぐっと締った舞踊「勸進帳」。歌謡は専属バンドつきで中島奈々美さんをはじめ学校とはおなじみの佳山明生さんが「氷雨」他を熱唱して興を添えれば、今度は趣向を変えて藤山新太郎さんの大仕掛けな奇術などあり、余興の締めくくりは協会「五禽の会」の舞踊。指導の五條雅也先生、佐藤栄江子、山本文子の三先生がこの日に相応しい「祝賀の舞」を踊り、終って五禽の会全員で手振りも美しく、花笠音頭を踊って余興の部を閉幕。オリンピック応援団長山田直稔氏は国際色豊かな祝賀会に感激して飛入り出演「今日はさながら指圧のオリンピックです」と三三七拍手の応援団長振りを發揮。

最後に浪越校長の発声で指圧スローガンを全員でとなえ、日本指圧協会理事・佐藤支祥氏の閉会の辞で盛り沢山な祝賀会を午後二時三十分盛會裡に終了した。

日本指圧専門学校 平成二年度通常総会

懇親会・浪越徹先生校長就任祝い

左記により同窓会総会を開催いたしますので、御出席下さいますようお願いいたします。
平成二年三月

日本指圧専門学校同窓会会長 山内貞四郎

記

- 一、とき 平成二年六月十日(日)
- 一、ところ 開会 一・〇〇〜五・〇〇 茗溪会館(電話九四三三〇三二一)
- 一、内容 (地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅下車徒歩一分) 総会(一・〇〇〜三・〇〇) 記念講演「関節疾患のリハビリテーション」 日本指圧専門学校講師 山内貞四郎
- 一、懇親会・浪越徹先生校長就任祝い(三・〇〇〜五・〇〇) 八、〇〇〇円(当日も可)
- 一、会費 同封の振込用紙にて会費前納して頂きますと受付事務混雑が防げますのでご協力の程切にお願い申し上げます。同封の申込はがき(切手不要)に出欠を明らかにして六月四日までに必着でご投函下さい。申し込み人数にて準備を進めますので、総会と懇親会の間、合同写真。

創立五十周年実行委員会委員氏名

◇学校関係

浪越徳治郎、浪越徹、浪越満都子、浪越和民、浪越孝、小林久夫、岡安俊雄、藤田和子、佐藤八郎

◇同窓会関係

山内貞四郎、石垣惟一、藤井正弘、小出忠志、小林秋朝、上野欣二、片岡弘昌
◇同窓会各期代表

▽学院Ⅱ定祐寅一▽Ⅰ期Ⅱ持木光子▽Ⅱ期Ⅱ上条雅久▽Ⅲ期Ⅱ稲場啓護(協会役員)▽Ⅳ期Ⅱ杉野隼太、春日井力▽Ⅴ期Ⅱ秋元一郎▽Ⅵ期Ⅱ斉藤嘉子▽Ⅶ期Ⅱ広村貞雄▽Ⅷ期Ⅱ鈴木林三、赤沢えい▽Ⅸ期Ⅱ四条静江、丸井孝男▽Ⅹ期Ⅱ高橋宏次、高野正之▽Ⅺ期Ⅱ工藤てる、川上金造▽Ⅻ期Ⅱ田村親郷、糸賀伸由、梅沢栄子▽Ⅼ期Ⅱ田端哲郎▽Ⅽ期Ⅱ伊原芳雄、本杉高啓▽Ⅾ期Ⅱ相澤金雄▽Ⅿ期Ⅱ高橋和子、前田フサ子▽ⅰ期Ⅱ戸来みや子▽ⅱ期Ⅱ木下誠、新多喜治、横関夏夫▽ⅲ期Ⅱ青木宏▽ⅳ期Ⅱ舟島正八、伊藤節子▽ⅴ期Ⅱ高野助二▽ⅵ期Ⅱ松尾政次、岡守守▽ⅶ期Ⅱ横尾益夫、山崎竹照、山田明信▽ⅷ期Ⅱ山田滋、馬場今朝美、高野昇司、徳永勇治郎▽ⅸ期Ⅱ松本定男、佐藤元彦、片瓜和夫、小川清▽ⅹ期Ⅱ野口伸二、古谷真人、佐藤優▽ⅺ期Ⅱ川原善次郎、小山輝男▽ⅻ期Ⅱ中島祥景、結城国夫▽ⅼ期Ⅱ鈴木甲子男、片野和夫、石神登志雄▽ⅽ期Ⅱ渡辺昇、木村健、河合秀雄▽ⅾ期Ⅱ山下茂幸、北川広治、西井一志、日比野史郎
◇協会関係(役員、支部長他)
佐藤岩治郎、山口忠治、山岡祥宏、水岡道

三、中尾努、稲場啓護、小林彦太郎、小松福松、佐藤玄祥、中島愷久、鈴木孝雄、相沢君江、根岸とき枝、嘉義了久、佐々木重雄、斉藤鶴男、田代和平、佐藤一美、田中保、西沢重男、青木雅美、和田常雄、岡元満、池永卓雄、上仲誠夫、稲場豊、金橋寿郎、内城勇造、鈴木啓造、中沢要蔵、増田清一、伊藤千三、石原博司、藤戸等子

実行委員会役員、職務分担、総務会各種委員氏名
(敬称略、順不同)

◇役員

◇委員長Ⅱ山内貞四郎

◇副委員長Ⅱ浪越徹、石垣惟一、藤井正弘、小出忠志、小林秋朝、上野欣二、片岡弘昌、佐藤岩治郎、水岡道三、山口忠治、山岡祥宏

◇職務分担Ⅱ▽議長Ⅱ上野欣二▽副議長Ⅱ藤井正弘▽書記Ⅱ木下誠、佐藤八郎▽会計Ⅱ佐々木重雄、小山福松、上仲誠夫

◇各種委員会委員(◎印代表)

▽式典委員会Ⅱ◎石垣惟一、佐藤岩治郎、山口忠治、浪越和民▽祝賀会委員会Ⅱ◎小林秋朝、鈴木孝雄、佐藤元彦、田代和平▽受付係り◎浪越満都子▽予算◎小山福松、佐々木重雄、上仲誠夫▽渉外◎浪越和民、藤田和子▽半身像建立委員会◎小林秋朝▽記念誌◎水岡道三、岡安俊雄、上野欣二、佐藤八郎▽記録(写真を含む)◎佐藤八郎、上野欣二、浪越孝

なお総務会は正副実行委員長、各種委員会代表、学校側Ⅱ校長、事務長、経理、教職員(浪越満都子、藤田和子、佐藤八郎)を以て組織。

式典に致るまでの経過

二月二日於祝典会場

春たけなわの平成元年四月二六日、日本指圧専門学校同窓会では各期代表からなる運営委員会を開催、平成二年二月一日の開校記念日に、同窓会が中心となって創立五十周年の式典、祝賀会を盛大に挙行し、併せて学校創立者、浪越徳治郎先生の半身像を母校に建立し、その除幕式を祝賀会の席上で行なうことを確認しました。

五月一二日

学校、同窓会、日本指圧協会の代表30名が集まり、創立五十周年記念準備委員会を決定、式典、祝賀会の日時、会場、胸像除幕式、五十年誌発刊、協賛金の依頼など記念事業の骨子を協議するとともに、実行委員会役員、教職員、同窓会各期代表、日本指圧協合理事、支部長を含む113名の実行委員を選出しました。

六月一日

日本指圧専門学校同窓会通常総会開催、席上全会員の記念事業への協力、協賛が万場一致で承認されました。

六月二三日

創立五十周年記念第一回実行委員会開催、同委員会役員を承認、同委員会を、式典、祝賀、胸像、記念誌、記録、渉外、予算の各委員会に別け、役員、各委員会代表27名で総務会を作り各事業の執行、横の連絡をとって事業を進めることが承認されました。

七月一九日

第一回総務会を開催、以下二月二日の最終会まで七回、事業の進展に合わせて開催致しました。

八月一日

創立五十周年記念事業趣意書を全国同窓会員に発送。

十月二三日

式典、祝賀会場下見と打合せ、その後数回細部にわたり各担当小委員会が開かれました。

十一月二七日

記念品は美濃焼雪志野花瓶、桔杏屋窯二代目小三郎作などに決定。

十二月二〇日

式典、祝賀会開催の案内状を全国に発送

二月二日

創立五十周年誌完本。

五月三一日

胸像関係については浪越徳治郎先生、胸像製作のための撮影

七月一五日

校長先生はじめ委員18名半身像原型下見建立場所設計等打合せ。

七月二七日

石膏像完成

八月七日

半身像のレプリカ試作品完成

十月二九日

铸造完成

平成二年一月二六日

碑文完成

二月八日

春を呼ぶ小雪の中、桜御影石の台座完成本日除幕の半身像を建立できる運びとなりました。

三月八日

協賛金は当初の目標額の180%を達成本日式典出席者540名、祝賀会出席者千名のかくも盛大な祝賀会を迎えることができました。

これ一重に国内ならびに諸外国でご活躍の同窓生皆様の深いご理解とご協力の賜ものと心から感謝いたします。

実行委員 小林秋朝



日本指圧専門学校

吸引圧法のテクニック

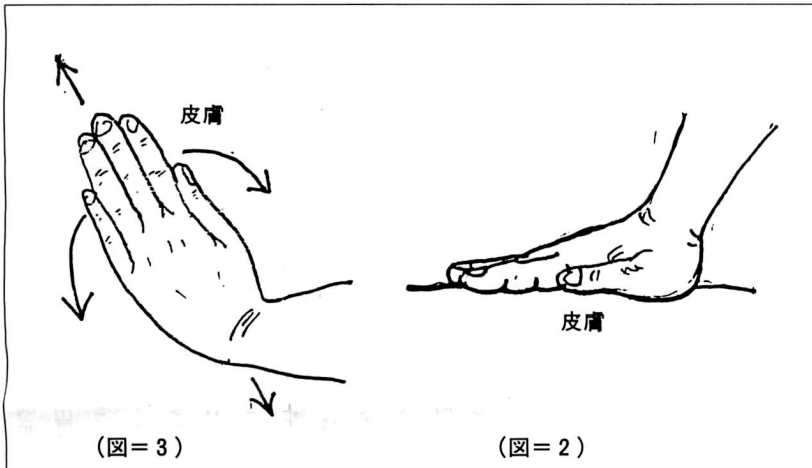
校長 浪越 徹



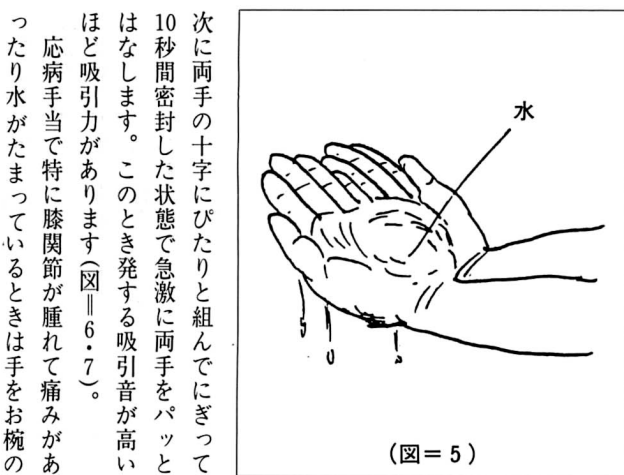
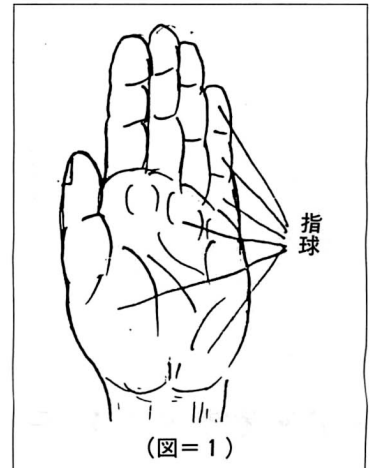
指圧の圧法の中でも独特な技法でかなり熟練したテクニックを要します。基本操作での吸引圧法は伏臥位の背部調整のときの肩甲骨の輪状掌圧、殿部の輪状掌圧、横突起調整法、仰臥位での腹部の波状掌圧、輪状掌圧などに吸引圧法を用いています。術者の手掌全体の各球部が豊にふっくらと発達するほど柔軟性と弾力性によって皮膚への密着度が増し吸引力が強まります(図1)。

また術者の手の皮膚が適当なるおいを持った潤湿さが必要で、かさかさに乾いた手や、じめじめした湿っぽい手は好ましくありません。

吸引圧法のテクニックのコツは手掌全体、三指、母指球、小指球などを用いて皮膚に



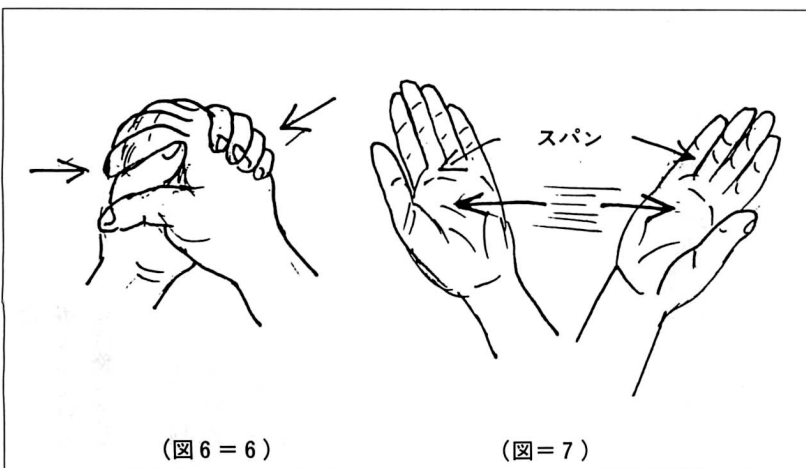
じかにびたりと密着させます(図2)。軽い持続圧を加えながら移動させたり(図3)、徐々に圧を加えながら瞬間的に急速に皮膚からパッと手をはなします(図4)。



次に両手の十字にびたりと組んでにぎって10秒間密封した状態で急激に両手をパッとはなします。このとき発する吸引音が高いほど吸引力があります(図6・7)。

応病手当で特に膝関節が腫れて痛みがあったり水がたまっているときは手をお腕の

この練習法としては手指をふっくらと発達させるため皮膚直接への掌圧を顔面部、腓腹部、腎臓部、腹部にまんべんなくくりかえします。この操作では手指の間を開かないよう閉じてすき間をなくします。次に両手をそろえてすき間をなくしお腕のように丸みを作ります。湧き水を手で飲むときの要領でどの位の間、両手で水を漏れないように保てるかを練習します(図5)。



ように丸め患部にかぶせるようにして微圧で圧が膝に負担をかけて痛まないように10秒間位の持続圧、ときには軽い振動圧法を加えたりして急激に手をはなし吸引圧法を行います。

吸引圧法の適応症としては皮膚のたるみ、しわ、皮膚機能の活発化、むくみ、腫脹、病的滲出物の吸収、筋萎縮、内臓下垂、顔面神経麻痺などです。

この技法はあらゆる部位を皮膚直接に自己指圧操作でくりかえし練習して高度なテクニックを体得して下さい。必ず効果が期待できます。



〈卒業二十周年を迎えて〉 十一期生の集い

私達11期生は昭和44年3月21日、目黒雅叙園に於て卒業式と謝恩会が行われ、最後に指圧の心母心の校歌を声高らかにうたい散会しました。その当時浪越徳治郎先生は大変お若く、テレビに映画に出演され、全国に指圧ブームが湧き上りました。指圧の良さが知れわたった最中に私達は卒業しました。又、浪越徳治郎先生からマリリンモンローを治療した話、実技の指導を直接教わり治療の根源、真髓をこんこんと教えられました。私達は今でもその時教わりました事が深く深く脳裡に刻みこまれております。又、現校舎を第一回目に卒業したのは11期生でした。あれから20年の歳月が流れもうそんなになつたのかな——と昔を振り返っております。だが20年たつても指圧の腕はチットモ上つていないじゃないかと自問自答しながら日々を暮しております。そ

の20周年を記念しまして祝う会が平成元年4月16、17日一泊二日の予定で、南房総の最南端温暖の地、別名花の宝庫と言われる南房バラグイスの中にあるホテルいこいの村たてやまで豪華に行われました。参加者は20数名で首都圏の在住者は勿論の事、遠くは四国、愛知からはせさんじ20年振りに会った友もありお互に手を握りあい再会の喜びに奇声を発し、感激し、感涙致しました。宴会の席上でも各部屋へかえつても話は湧く泉の如く次から次へと出まして、あき事なく時の過ぎるのを忘れ夜明迄話しこんだ方もいました。朝になつても未だ話足りない様子でした。友の顔は生々としてニッコリ微笑み黒い瞳はランランと輝き真赤に燃えた炎がどんとぶつかつてくるのを肌を感じ、情熱のエネルギーがほとばしるのがひしひしと胸に伝わって来ました。本当に楽しい楽しい20周年記念でありました。別れた後、又この良き友と何時会えるかな——とチョットセンチになりました。友よ何時迄も何時迄も元気で又会える日を楽しみにしております。

茂田井 良平記

第十九期会 (TALK会)

去る七月二十一日、夏期大学に於て、左記出席者によつて、十九期全体同期会が行われ、席上、日本指圧専門学校及び同窓会に協力するため、それぞれ運営委員を選出。更に個々にあつた同期会の名称を統一するため、出席者で起案。「トーク会」と決定し、同期生に周知徹底す

ることにした。

〈出席者〉

- 川浜、大鶴、森尻、桑古、地久、安斉、菊地、後藤、佐藤、池永、川上、山岡、藤本、神田、日浦、山田、江戸、舟津、中沢 以上19名
- 〈運営委員〉 代表委員長・佐藤玄祥
- A組 大鶴・神田
- B組 佐藤、池永 (徳美会)
- C組 舟津、中野
- D組 日浦、菊地

二月十一日、学校創立五〇周年記念式典に出席を要請、とりあえず、前夜祭の形で、総会を開くことに決定。

尚席上、山岡祥宏氏の日本指圧協会副会長就任を全員で祝福。同氏の今後のご活躍に多大の期待と声援をよせた。

佐藤 玄祥記

第二十一期B組 (クラス会)

平成元年度のわが同級会は、なつかしい指圧学校の近くでということ、「いけ増」の昼食会となりました。

参加人員は関東一円から二十二名と盛況で、十年ぶりという顔ぶれも多く、昔話に花が咲きました。

あのころクラスの人気者の、若い女性は、結婚してすっかり奥様らしさが板につき、また当時の若い男性は髭を蓄え、いかにも堂々とした指圧師風にといい変貌ぶり。学科の勉強ばかりで実技のほうはどうかと思われた中年男性が、白髪もふえ、貫禄十分に指圧治療の奥義を披露するなど、皆それぞれにこの十一年間の来し方

を偲ばせるものがありました。

それにしても、指圧の仕事をしているクラスメートの元気なことには驚きでした。

昭和六十三年度は、卒業後十年目の同級会ということで、浪越副校長をお迎えして一泊二日の熱海旅行を豪華に行いました。参加者も北海道、静岡、京都、岡山から駆けつけるなど大いに盛り上がりました。

二年連続して同級会を開いてくれた幹事の高野、横関、玉川、関口の皆さん、御苦労さまでした。今回は四年後の平成五年に行うとのことですが、今から皆で楽しみにしています。

今泉 英雄記

第二十四期A組 (錦絵会)

平成元年度錦絵会は六月三日、四日、新緑の河口湖畔の宿、外川荘に於て現地幹事の中村強先生のお骨折りで開催、両日とも天候に恵まれ、眼前に仰ぐ富士山は、さすが日本一、その雄姿に一同感激する家族同伴を含む総勢二五名と盛会であつた。所定十五時〇分当館広間にて研習会、

常任幹事長山田滋先生の開会挨拶、一、指圧協会の現況報告及諸々の連絡事項、二、親睦錦絵会の今後のあり方等について、続いて当日選任講師、有原五月先生の自己体験発表「指圧修業」 足の反射は眼の治療に繋がる不思議を説かれ「守ること、必ず二合のぬるま湯を飲むこと、条件」西納数先生、呼吸法について、その他、太田博久先生、腰痛予備の見分け

方、その他、上嶋正人先生、指圧の心得、指の魅力、生理解剖学勉強の大事を説く、板谷健一先生、捻挫治療、電気療法(低周波、電流扱い方)各講師の修業には只々感心するばかりである、懇親宴会また楽しんで、それは大変に忙がしい、楽しみの楽しい一夜は更ける、朝食時、例通り次回の候補地会場を話合う。賛成多数により次回は「ふれあい」十周年の節目年ということで、北九州地区、現地幹事役板谷健一先生のお骨折を確約して散会する。

渡辺 定文記

第二十四期B組(茜会だより)

やわらかい陽ざしが心良く感じられ、梅の花が散って桜咲く春がすぐそこ迄訪れて来ました。

茜会のみなさま、お元氣のことと思います。ついこの間学校の五階で入学式を迎え、多くの友々にお逢い出来たばかりなのに、早くも今年で十年が過ぎました。この十年を大きな節目として、今年はクラス会を大型にと、北海道に決定致しました。この計画はクラス会のたびに出席者からのご意見でしたので、実施する事に致しました。社会的にも、家庭的にお忙しい毎日をお過しと思いますが、どうぞご参加してください。「何人参加するかナ」。

二月末日に全員に発送した文書をよくお読みになりまして、学校とご連絡の上、学債の受け取りをしてください。どうぞみなさん、いついつ迄もお元氣

でご活躍くださいませ。

悲しいお知らせ

平成元年三月八日 若くてポッチャリとした可愛らしかったあの方。島根

県のお父様からご連絡がありました。みなさんでつつしんで深く合掌し、あ

りし日の竹下雅子様を偲んでください。平成二年三月一日 馬場今朝美 記

第二十五期C組(クラス会)

二十五期C組卒業の諸先生方、お元氣で毎日お過しの事と拝察しお喜び申し上げます。毎年恒例となりましたクラス会も早七回を迎えました。担任の小林秋朝先生そして、同窓会長をされている漢方を教えていただいた山内先生をお迎えして、去る十月八日曜日飯田橋のセントラルプラザ2階「げんない」にて開催されました。

来賓の先生からは、「日本指圧専門学校創立五十周年の記念行事については是非とも格段のご協力をお願いしたい」とのお話があり、浪越徳治郎先生の胸像製作費募金は予想通りに順調に推移している様子でした。学校創立五十周年事業大変な事と思います。

私共が何かを志して半世紀の歳月を味わう事が出来るでしょうか、自信がありません。浪越徳治郎先生を基として門弟である私共が五十周年を味わい共に慶べたら最高です。先生の御挨拶後、出席された先生一人づつ近況報告していただき、

大変有意義なお話をしていただきました。一年に一回の顔合せですが、回を増すごとに先生方が立派に成られていくと、高澤先生が云われたのに共感致しました。次回は指向を変え開催致したいと考えています、何卒皆様の御協力をお願い致します。追伸、電話にて近況のわかった先生方のお知らせ、国生先生現在新橋におられ指圧で頑張っておられます。荒屋先生千葉で治療院を開業。山下先生は、結婚されハワイ州に在住。諸永先生静岡県と高円寺にて治療院を開業。

宮崎県の南芳指圧治療院の山田修先生より連絡をいただき平成2年のクラス会にはぜひ出席したいとの事でした。人様の健康に奉仕させていただく私共ですが、どうか御自分の健康にも留意されます様心よりお祈り申し上げます。

中澤 雅啓記

第三十期B組(クラス会)

B組の皆さん、お元氣ですか？

昨年六月十一日(日)のクラス会には、浪越校長をはじめ、石垣、山内、藤井、小林先生をお迎えして級友十数名、A組の級友数名のご参加を得て、大変楽しい会となったことをご報告致します。

本年も、昨年同様六月十日(日)同窓会総会の後五時から大黒屋で開催致しますのでご参加下さい。

今回は特別通知を出しませんので六月七日までに出欠、近況等お知らせ下さい(会費四千元の見込)

渡辺 昇記



二十五期C組



祝日本指圧専門学校卒業20周年記念

十一期生の集い



十九期会



二十一期B組

日本指圧専門学校 同窓会 決算書

(自平成元年4月1日)
(平成2年3月31日至)

収入の部

科目	内 訳	元年度予算	元年度決算
会費	終身会費	1,640,000	1,670,000
事業	総会懇親会費	630,000	756,000
雑収入	預金利息	50,000	72,431
	その他	50,000	72,000
	計	100,000	144,431
	前年度より繰越	2,504,630	2,504,630
	収入総計	4,874,630	5,075,061

支出の部

科目	内 訳	元年度予算	元年度決算
会議室	総会費	900,000	991,603
	役員会費	50,000	6,307
	計	950,000	997,910
事業費	会報発行費	1,000,000	1,521,201
	会員名簿費	50,000	0
	計	1,050,000	1,521,201
本部費	人件費	10,000	0
	通信費	150,000	82,678
	印刷費	100,000	24,450
	渉外費	200,000	683,052
	交通費	50,000	2,210
	慶弔費	10,000	0
	事務用品費	20,000	113
	雑費	10,000	10,300
	計	550,000	802,803
		予備費	200,000
	支出合計	2,750,000	3,321,914
	次年度繰越	2,124,630	1,753,147
	支出総計	4,874,630	5,075,061

決算付記

収入の部

○終身会費

三二期生 A組 七〇名分

(後期納入分一人当五千円)

三三期生 (全納一人当一万円)

A組 七四名分

B組 五八名分

○総会懇親会費

七千円×一〇八名

○総会ご祝儀

浪越徳治郎校長から二万円

日本指圧協会から 二万円

浪越和民先生から 一万円

小林久夫先生から 一万円

佐々昭三先生から 七千円

田村御二先生から 五千円

支出の部

○会報発行費

八号発送 四、一〇〇部

九号印刷費 四、八〇〇部

○渉外費

吉田克廣先生葬儀生花代 三万円

日本指圧協会婦人部結成祝金 一万円

創立五〇周年記念協賛金 五十万円

同 生花代 二万円

夏期大学懇親会費 一万円

指塚供養生花代 一万円

体育祭協賛金 五万円

三二期卒業生表彰賞品代 五万円

五十周年協賛会協賛者名簿

会報九号別冊として同時発行

○次年度繰り越しの内訳

貸付信託として百万円

金銭信託として六七四、八三三円

郵便貯金 七八三三四円

平成二年三月二日 以上

会計委員 青木宏

協賛金賛助者

ご芳名

同窓会協賛金制度は昭和六十年年度発足以来、今年度で六年目を迎えることになりました。昨年度は学校創立五十周年記念事業の御協賛等もありましたが皆さまの御協力でご協賛件数、金額ともにかえって前年度を上回る御協力をいただきました。平成元年度の御入金金額は次のとおりです。領収証がわりに入金別御芳名一覧表を掲載させていただきます。

なお平成元年六月十一日の通常総会には別記のとおり六件、七、二〇〇〇円のお祝金をいただきました。併せて御礼申し上げます。

◇平成元年度入金総数 一四一件 五〇九、五〇〇円

◇年度別入金額と累計

昭和六〇年度 四四三、〇〇〇円

(郵便手数料 五、四五〇円)

昭和六一年度 三〇九、四〇〇円

(郵便手数料 四、一四〇円)

昭和六二年度 四三一、七八〇円

(郵便手数料 四、三二〇円)

昭和六三年度 四一八、〇四〇円

(郵便手数料 五、一四〇円)

平成元年度 五〇九、五〇〇円

(郵便手数料 五、八八〇円)

五カ年合計 二、二一一、七二〇円

(郵便手数料 二四、九二〇円)

◇平成元年度協賛金賛助者御芳名

(順不同、敬称略、○数字は卒業期)

一万二千円 一件。●井島大⑬

一万円 九件。●小峯俊夫⑭、飯田ノ

り子⑮、井上征夫⑯、柿崎隆司⑰、高野

助二⑱、田島市五郎⑲、畑中糸美⑳、●

山本文子⑳、井尾栄㉑。

七千円 一件。松田節子⑳

五千円 三一件。●川上春治①、福沢

司津江①、大橋昇②、皿井千代子②、石原博司③、金子忠哉③、和田常男⑤、佐藤岩治郎⑥、嘉義了久⑩、田村親郷⑬、菊地善信⑭、村野博幸⑭、山田和子⑰、小山福松⑱、濱中岳美子⑱、西沢重男⑱、横岡夏夫⑲、渡辺利雄⑲、富松栄夫⑲、田名網栄一⑲、西千鶴子⑲、湯沢洋二⑲、横尾益夫⑲、沢畑碩亮⑲、税田吉弘⑲、吉本清澄⑲、●山内貞四郎⑲、田中保⑲、久保田紀代子⑲、高橋福見⑲、小川清⑲、三千五百円 一件。村田和敬⑳

三千円 六二件。持木光子①、鈴木孝雄③、永山穂奈子④、水岡道三⑦、前川磯文⑧、赤沢えい⑧、野口幸子⑧、工藤てる⑪、村松カチ子⑪、田端哲郎⑬、山内澄子⑬、小沢春枝⑬、齊藤良知⑬、戸川弘子⑬、久保田義人⑬、舟島正八⑬、黒岩廣吉⑬、渡辺勝郎⑬、小川久子⑬、高岡重之⑬、山田滋⑬、金橋寿郎⑬、近藤くに子⑬、岩崎幾男⑬、林五郎⑬、阿部保司⑬、●相沢君江⑬、辰馬富美⑬、佐藤栄江子⑬、稲場啓護⑬、神田勇⑬、根岸とき枝⑬、石垣惟一⑬、藤井正弘⑬、大西寿⑬、小出忠志⑬、浪越満都子⑬、高橋和子⑬、藤戸等子⑬、国田イト子⑬、前田フサ子⑬、小林秋朝⑬、戸来みや子⑬、上野欣二⑬、山口忠治⑬、木下誠⑬、中沢要蔵⑬、青木宏⑬、藤田一彦⑬、鳩宿照男⑬、伊藤節子⑬、田代和平⑬、遠藤ミツ⑬、片岡弘昌⑬、荒川シズ⑬、山田明信⑬、井谷裕行⑬、浪越孝⑬、川原善次郎⑬、内城勇造⑬、結城国夫⑬、福安志泰⑬。

二千円 一九件。●石原雪江①、高橋昌子①、岡末八郎⑬、山口徳蔵⑬、時田清雄⑬、小能里子⑬、西郡まさ⑬、今泉英雄⑬、野田良行⑬、柴崎聖子⑬、松永哲夫⑬、佐藤文三⑬、横内明彦⑬、福井正昭⑬、●岡林猛⑬、関忠三郎⑬、野口伸二⑬、飯塚博一⑬、糸賀四郎⑬、●一千元 一八件。●池田正⑬、堀江秀樹⑬、三好英子⑬、青木豊⑬、鷹巣栄一⑬、道下数一⑬、●日野紘造⑬、大江和子⑬、岡末守⑬、三木幸子⑬、渡辺昇⑬、赤岡充雄⑬、石川明子⑬、宮田経子⑬、井上和美⑬、山下茂幸⑬、北川廣治⑬、海阪治⑬。

副幹事長 上野欣二 記



＝海外より“同志”多数参加＝
50周年「祝賀会」大盛況

浪越 徹



から10日間学校へ実技の研修に来ました。イタリーとオランダの一行はほとんど観光のスケジュールなしで、ひたすら指圧実技の研修のみという熱心さです。私が外国に行つて感じたことは外国で指圧を習った人達は皆、一度は指圧の総本山ともいふべき日本指圧専門学校で学びたいという念願を持っているというこ



とです。これを機会に今後ますます外国との指圧の交流を深めて世界の指圧としての研究と実技の向上を目指したいと念願しています。

「同志あり外国より来たる また 楽しからずや」



オランダ指圧学校長、デニス・ピンクス先生より、500年前の帆船模型贈呈



ハワイ愛泉指圧学校長 因泥文彦先生



実技研修

編
集
後
記

今号は母校の創立五十周年記念行事の特集といたしました。記念式典祝賀会に当日参加できなかった同窓会員の皆様にもその様子をカラー写真でお届けします▼浪越徳治郎先生の半身像除幕式を挙行政した大祝賀会の円卓百を数える豪華絢爛たる模様はまさに壯観でした。目を閉じるとその有様が彷彿としてきます▼当日各界から多数のご来賓の方々にご祝辞を戴きましたが紙面の都合で掲載できませんでしたがご了承願います▼六月十日の同窓会総会、懇親会、浪越徹先生校長就任祝いのご案内は会報七ページに掲載、同窓会員多数の出席をお待ちしています▼三月十一日に、三十二期生が有終の美を飾り待望の指圧界へ門出していった▼四月八日、改まった緊張感と胸の高まりを覚えながら新制度のもとで新入生が入学した▼この会報が届く頃五月十三、四日は、二年生の伊豆半島周遊の修学旅行、白い砂浜、蒼い海、碧い空、緑濃い山々の大自然の中で思い出を沢山胸に！▼電車の中で見かけた親子連れの洗いざらしの白いブラウスに紺のスカート、麦藁帽子が如何にも初夏を想わせ清しい印象でした。都会にも何時の間にかやら夏はそこまで――この時季悠悠と過ごしたいものです。

会報編集委員長

小林 秋朝